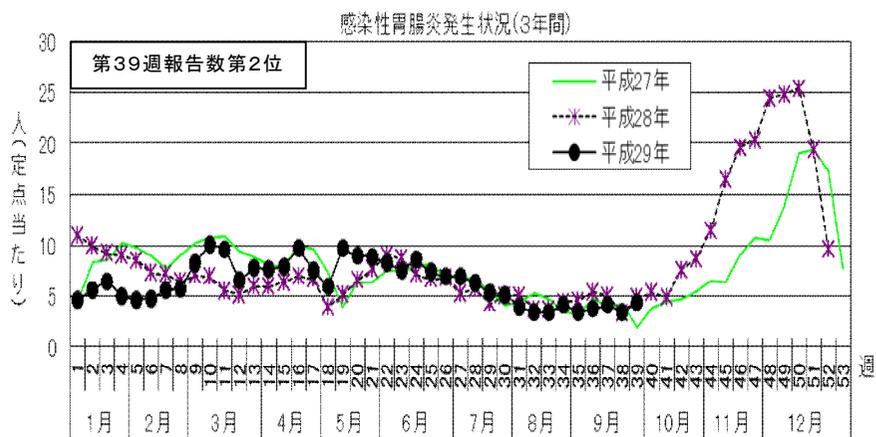
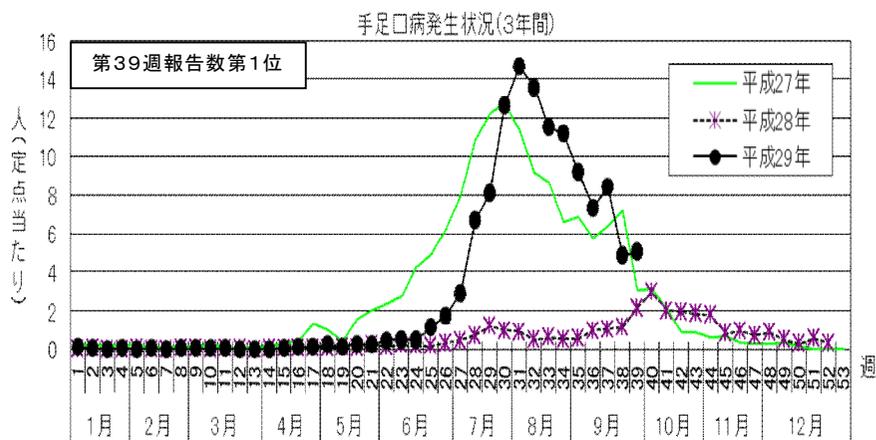


# 今、何の病気が流行しているか！

## 【感染症発生動向調査事業から】

平成29年9月25日（月）～平成29年10月1日（日）〔平成29年第39週〕の感染症発生状況

第39週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。手足口病の定点当たり患者報告数は5.06人と前週（4.86人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.36人と前週（3.46人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.97人と前週（1.03人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

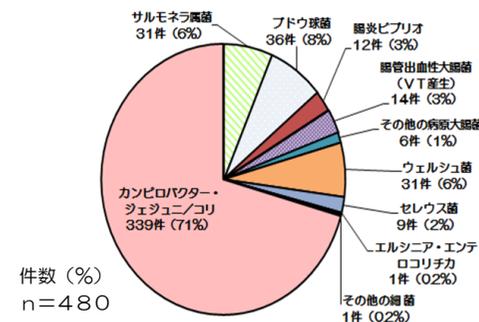


## 涼しくなっても食中毒にご注意ください！！

細菌を原因とする食中毒は例年6月～8月に発生件数が多くなりますが、今年は9月以降も腸管出血性大腸菌やサルモネラ属菌などによる集団発生事例が相次いでいます。

また、細菌性食中毒の中では、カンピロバクターを原因とする件数が最も多く、平成28年には全体の71%を占めました。食中毒を防ぐためには、食品を中心部まで十分に加熱（75℃以上で1分間以上）することや手洗いを徹底するなどの予防対策が重要です。

全国における細菌性食中毒発生状況（平成28年）  
厚生労働省 食中毒統計資料より作成



### ＜主な細菌性食中毒について＞

原因菌	潜伏期間	主な症状	代表的な原因食品
腸管出血性大腸菌	2～14日 (平均3～5日)	激しい腹痛、水様性下痢、血便等	加熱不十分な牛肉や牛レバー等の肉類、汚染された野菜等
サルモネラ属菌	6～72時間 (通常12～48時間)	腹痛、下痢、発熱、嘔吐等	主に鶏肉を中心とする肉類、卵、乳製品等
カンピロバクター	1～7日 (平均3日)	下痢(血便)、腹痛、発熱、嘔吐等	主に生や加熱不十分な鶏肉(鶏刺し、鶏たたき)等